

# ウスバアオリ普及拡大事業

## 地方創生拠点整備交付金

牧野賢治・平野 匠

漁業者の収入増大を目的にウスバアオリ養殖を定着させる。

### 材料と方法

本県海域におけるウスバアオリ養殖の可能性を調べた。

養殖試験は、紀伊水道のクロノリ養殖漁場の内、北部海域（川内地先）及び南部海域（今津地先）の2箇所でおこなった（図1）。

水産研究課鳴門庁舎で平成29年5月に母藻細断法によりノリ網20枚（幅1.8m×長さ20m）にウスバアオリの胞子を付着させた。そのまま1トンパンライト水槽の中で10日間育苗させたものを、種網としてナイロン袋の中に密封し、5℃に設定した冷蔵庫内に試験開始まで保存した。北部海域は12月9日、南部海域は11月8日から冷蔵保存した種網を試験地に張り込んで、経過観察を実施した。

### 結果と考察

北部海域については、12月22日の観察では、ノリ網に珪藻の付着が目立っていたが、珪藻に覆われずに生長したウスバアオリの幼芽が藻体長1cmほどであった。1月15日では、3cmほどに生長していたが、ノリ網への珪藻の付着量が前回よりも増えていた。1月31日には長いもので18cmまで生長していた藻体はあったが、網により生長の度合いに差がみられた。また、ノリ網に珪藻が大量に付着していたため、収穫して加工しても商品価値がないと判断して、この時点において北部海域の試験を終了した。

南部海域については、11月28日、付着珪藻がノリ網を覆っている状態になり、珪藻に覆われずに生長したウスバアオリ幼芽に活力がないように感じられた。12月7日、12月21日の観察時においてもノリ網への珪藻の付着が止まらず、長いもので9cmに生長していたウスバアオリ藻体もみられたが、ノリ網によっては、珪藻の付着により発芽も確認されないものもあった。2月23日には、珪藻の付着はみられなかったものの、藻体幅が5cmほどに広がり、これ以上の生長は見込めないと判断して試験を終了した。

北部海域と南部海域において、ウスバアオリが全く生長しないということではないが、珪藻の付着対策をしないと、ウスバアオリ養殖を新たな海藻養殖として定着させることは難しいと考える。

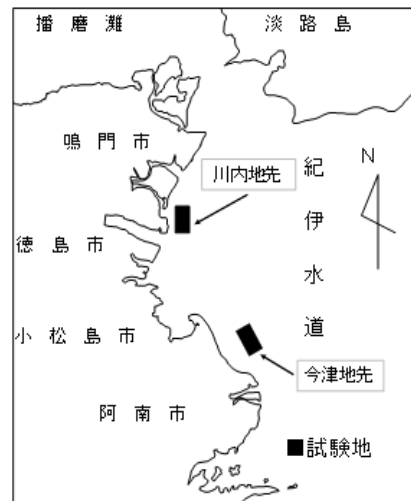


図1．試験場所



拡大

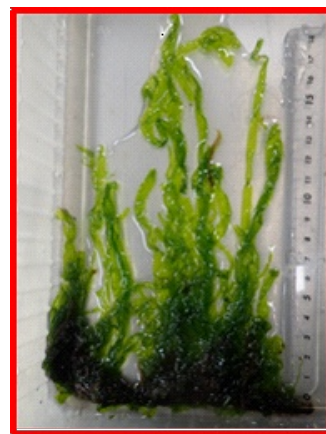


写真1．北部海域（川内地先）で珪藻に覆われたノリ網（左）と生長したウスバアオリ（右）